

GIP-TRIAD

Newsletter

Jan. 2016

Vol.

1

CONTENTS

1 はじめに

2 活動紹介

…… 第3回グローバルイノベーション学位プログラム会議

【教職員・学生の交流】

…… 国立台湾大学サマープログラムへの参加

【Tsukuba Global Science Week 2015 (TGSW2015)】

…… 同窓会の充実に向けて

…… GIP-TRIAD ネットワークの深化に向けて

…… 学生の研究発表コンペを通じた研究の相互理解へ向けて

…… 国際性の理解に向けて

【その他の関連活動】

…… TV会議システムを用いた同時中継遠隔講義

…… 在フランス大使館一等書記官がボルドーオフィスを訪問

…… ボルドーオフィスがVictoire キャンパスに移転

…… フランス留学フェア

…… ボルドー大学国際週間に参加

…… The 12th Solanaceae Conference (SOL2015) 開催

…… 「日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度」創設に向けて

3 海外留学関連情報

4 編集後記



1 / はじめに

この度、筑波大学、ボルドー大学、国立台湾大学における3か国の共同学位プログラムの開設に取り組むこととなり、その新しい構想に基づき開設準備を進めていくことになりました。掲載内容につきましては、これまでと同様に教職員、学生の活動などを中心に情報発信をしていきます。9月から11月にかけて、本学におけるTGSW2015をはじめとし、協定校である台湾、ボルドーにおいて国際交流イベントなどが多数ございましたので、それらの情報をGIP-TRIAD ニュースレター Vol.1 2016としてお届けいたします。

2 / 活動紹介

… 第3回グローバルイノベーション学位プログラム会議 — 3rd International Conference for Global Innovation Joint-Degree Program —

9月30日にグローバルイノベーション学位プログラム（GIP-TRIAD）会議がTsukuba Global Science Week 2015 (TGSW2015) と併せてつくば国際会議場にて開催されました。本会議では、海外協定校であるボルドー大学、国立台湾大学、カリフォルニア大学アーバイン校より関係者が集まり、GIP-TRIADを開設するための議論が行われました。

筑波大学からは、熊谷嘉人教授（医学医療系）による新しい構想の紹介と、亀田敏弘准教授（システム情報系）、Helmut Yabar 准教授（生命環境系）、永井裕久教授（ビジネスサイエンス系）からそれぞれの活動内容とGIP-TRIADへの展開・拡大をお話いただきました。さらに、海外協定校からは、国立台湾大学のMing-Ju Chen 教授（生物資源農学院/国際農業教育センター長）、Hsin-yu Lee 教授（生命科学院/生物資源センター長）、ボルドー大学のEmmanuel Frouité 氏（筑波大学ボルドーオフィス・マネージャー）により、それぞれの大学で進めているダブルディグリー・デュアルディグリープログラムについて紹介されました。最後に、2017年にGIP-TRIADを開設するための意見交換がなされ、開設に向けての活動が加速してきた様子がうかがえました。

Date	Wednesday, September 30, 2015 10:30 am-13:00 pm
Where	Tsukuba International Congress Center, Conference Room 402
Program	
Part 1	10:30-10:45 Yoshiki Kamegaki "Introduction of GIP" University of Tsukuba
Part 2	10:45-11:00 Tsukubiko Kimura "Space Technologies" University of Tsukuba
	11:00-11:15 Helmut Yabar "Sustainable Environment Studies" University of Tsukuba
	11:15-11:30 Hirokazu Nagai "Relationship with Business Partners" University of Tsukuba
Part 3	11:45-12:05 Hsin-yu Lee, Ming-Ju Chen From National Taiwan University National Taiwan University
	12:05-12:15 Emmanuel Frouité From University of Bordeaux University of Bordeaux
Part 4	12:15-13:00 Free Discussion

The international conference is organized for university of Tsukuba and its partner institutions to discuss and plan the Global Innovation Joint-Degree Program (GIP), which will begin in 2017. Specific themes to be discussed at the conference include: the state of progress for GIP; the contents of the double degree scheme; prospects for setting up joint degrees; and other presentations regarding the program, curriculum and general progress.



教職員・学生の交流

… 国立台湾大学サマープログラムへの参加 (8月16日—8月29日)

国立台湾大学でのサマープログラム（Summer Program plus N1）に筑波大学人間総合科学研究科の修士学生10名が参加しました。2週間のプログラムのうち1週間は国立台湾大学生物技術研究中心でのバ



イオテクノロジー実習、残りの一週間は、医学院、生命科学院、農学院の各研究室での最先端の研究を実施します。最終日には各研究室での活動について参加学生が研究成果発表を行いました。本プログラムは、春学期の遠隔講義（分子細胞生物学分野）やミニシンポジウムへの参加、Summer Research Program in Tsukuba2015でのTA活動など、国立台湾大学との一連の共同プログラムの中に位置づけられています。一連の活動の中で、双方の学生がホスト役とゲスト役を体験できる構成となっており、専門知識や技術のみならず、国際コミュニケーションを涵養する場となっています。GIP-TRIAD開校時には、プログラム参加学生へも開講される予定です。



Tsukuba Global Science Week 2015 (TGSW2015)

… 同窓会の充実に向けて (University of Tsukuba Oversea Alumni Conference 2015)

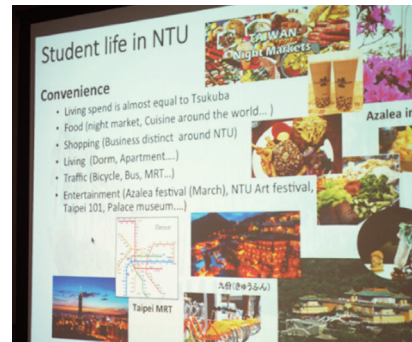
設立準備中の筑波大学台湾校友会より、幹事長就任予定の林華章学長（国立台湾体育運動大学）に参加いただきました。林学長は台湾野球界の第一人者で、選手としてオリンピック銅メダル獲得、コーチとしてオリンピック銀メダル獲得、第一回ワールドベースボールクラシックの台湾代表監督を務めるなど、輝かしい成果をあげられています。今回は、ご自身が筑波大学で学ばれたことを紹介いただくとともに、筑波大学台湾校友会の準備進捗状況について永田学長などへ報告いただきました。台湾校友会の設立と充実は、GIP-TRIADにおける台湾での学習、インターンシップ、就職などのサポートへと繋がっていくと期待されます。



… GIP-TRIADネットワークの深化に向けて (NTU Lounge & Imaging Science Café for Biology and Medicine)

国立台湾大学、ヒューマンバイオロジー学位プログラム (HBP)、GIP-TRIAD、筑波大学台湾オフィスの合同主催で、NTU Loungeを開催しました。国立台湾大学側からの活動の紹介（分子イメージングセンターや陽子線治療センター設計計画）とともに、現在、国立台湾大学生物資源農学院と筑波大学人間総合科学研究科（生命システム医学専攻）のデュアルディグリー課程を専攻している学生から、国立台湾大学と筑波大学での生活の違いなどについて紹介がありました。国立台湾大学からお茶などの提供や、カリフォルニア大学アーバイン校から軽食の差し入れなどがありました。本学永田学長やボルドー大学Tunon de Lara学長をはじめとする60名程度の教職員や学生に参加いただきました。GIP-TRIADでのパート





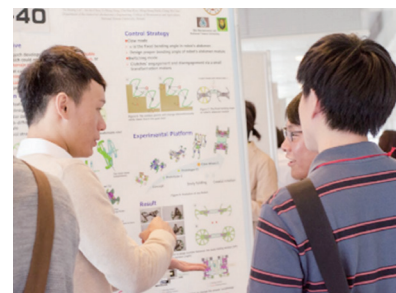
ナー校同士の相互理解に貢献していると期待されます。

NTU Lounge に引き続き、HBP、GIP-TRIAD、筑波大学ボルドーオフィス、筑波大学アーバインオフィス、筑波大学台湾オフィスの合同主催で、イメージング技術の最先端技術の開発および医学・生物学研究への応用というテーマでセッションを実施しました。筑波大学からは、高橋智教授と篠野健太郎准教授、国立台湾大学からTsu-Ming Liu先生、ボルドー大学からVincent Dousset 副学長、カリフォルニア大学アーバイン校からArash Kheradvar先生を招聘しました。カフェ企画として軽食を取りながら講演を聞いて議論をするというスタイルでした。また、付随して、筑波大学陽子線治療センターへの見学を実施しました。GIP-TRIADで必要な筑波大学、ボルドー大学、国立台湾大学間の共同研究について、特に陽子線治療分野での端緒がついたと思われます。



… 学生の研究発表コンペを通じた研究の相互理解へ向けて (Student Presentations)

医科学系主催の学生研究発表コンペティションは、口頭発表28名、ポスター発表39名からなる生命科学に関わる研究発表セッションで、各国の先生が学生の発表を評価して優秀な学生に賞を授与しています。筑波大学からは、23名の口頭発表者、31名のポスター発表者が参加しました。国立台湾大学からは学生10名（生物資源農学院2名、生命科学院4名、医学院3名、公衆衛生学院1名）が参加しました。2名は口頭発表、8名はポスター発表です。ボルドー大学からは1名の学生が口頭発表に参加しました。筑波大学から13名、国立台湾大学から3名の受賞者がでています。学生の研究発表を通じて、GIP-TRIADで必要な共同研究のシーズ発掘が期待されます。



… 国際性の理解に向けて (Tunis-Taiwan-Bordeaux)

GIP-TRIADでは世界規模問題の解決に向けて国際的に活躍する高度職業人の育成を掲げています。フランス（およびチュニジア）、台湾、日本の相互理解の深化へ向け、筑波大学台湾オフィス、筑波大学チュニスオフィス、筑波大学ボルドーオフィスの合同主催で、各国の社会問題を議論する研究セッションを開催しました。



その他の関連活動

… TV会議システムを用いた同時中継遠隔講義

10月より、ガンの生物学、をテーマに、国立台湾大学、筑波大学、京都大学との間の秋季遠隔講義がスタートしました。3大学連携となってから、5年目に突入です。週一回、計10回程度の授業です。毎回、各大学の講師陣からの英語講義と、学生グループの英語論文紹介プレゼンテーションを実施しています。学生グループによる論文紹介プレゼンテーションは、授業外でのグループ学習を要するものでタフな企画ですが、毎年学生のプレゼン能力が向上していくのがわかります。GIP-TRIAD開講後はプログラム参加学生へも開講される予定です。



… 在フランス大使館一等書記官がボルドーオフィスを訪問

8月28日、在フランス大使館大川晃平等書記官がボルドー大学を訪問し、併せて本学ボルドーオフィスを視察しました。ボルドーオフィスでは、本学が進めるCiC構想、GIP-TRIADジョイントディグリープログラムの取り組みなどを紹介すると共に、大学の国際化と現地大使館の連携について意見交換を行いました。GIP-TRIADはこれらの視察・意見交換を全面的に支援しました。



ボルドーオフィスにおける意見交換
(左から一人おいて大川晃平等書記官、木島謙次 教授・ボルドーオフィス管理責任者、Véronique Debord-Lázaroボルドー大インターナショナルオフィスディレクター)

… ボルドーオフィスがVictoire キャンパスに移転

2013年10月にTalenceキャンパスに開設された本学のボルドーオフィスが、今年7月、ボルドー市中心街のVictoire キャンパスに移転しました。GIP-TRIADの支援により現地職員（Emmanuel Frouté氏）と常駐教員（生命環境系・松倉千昭教授）が配置され、木島謙次 教授（ボルドーオフィス管理責任者）と併せて3人体制になりました。10月22日にボルドー大学の国際週間にあわせて Manuel Tunon de Lara学長を迎えて開所式を執り行いました。今後、ダブルディグリーやジョイントディグリープログラムで渡航する本学学生のサポートを強力に進めていきます。



10月22日にVictoireキャンパスで行われた開所式
(Véronique Debord-Lázaro ボルドー大インターナショナルオフィスディレクター、Hélène Jacquet 研究・国際戦略室次長、Manuel Tunon de Lara 学長、大根田修教授・国際室長、Dominique Rolin 教授・ボルドー機能ゲノミクスセンター・ディレクター、Michael Kann 教授・ボルドー大学・基礎微生物学・病原性学部長、木島謙次教授・ボルドーオフィス管理責任者)。



本学ボルドーオフィスが入居するVictoireキャンパスのメインビルディング



… フランス留学フェア

9月27日から10月4日の間、国際化の推進を目的としてフランス週間が開催されました。そのイベントの1つとして10月1日夜に本学のスチューデント・コモンズでフランス留学フェアが開催され、悪天候にも拘わらず20名近い学生が参加しました。フェアではCAMPUS FRANCEスタッフによるフランス留学に関する紹介、ボルドーオフィス現地職員・Emmanuel Frouté氏とボルドーオフィスGIP-TRIAD派遣教員・松倉千昭教授によるボルドー大学の紹介、フランス留学経験者による現地生活の紹介などが行われました。参加学生からも活発な質問がなされ、フランス留学への関心の高さを伺わせる催しとなりました。



ボルドー大学プラスバンドによるオープニング演奏



CAMPUS FRANCEスタッフによるフランス留学に関する説明



ボルドー大学の紹介をするEmmanuel Frouté氏と松倉千昭教授

… ボルドー大学国際週間に参加

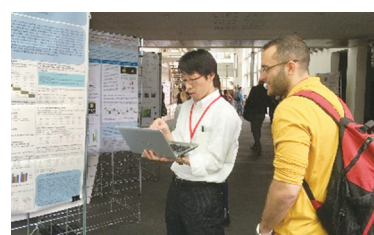
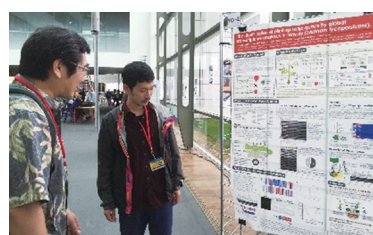
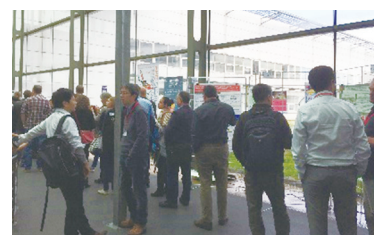
10月19日-23日にボルドー大学の国際週間が開催されました。ボルドーオフィスもブースを開設し、多くの学生に本学のPRを行いました。GIP-TRIADはEmmanuel Frouté氏が中心となり、これらの活動を全面的に支援しました。また、22日夜にはVictoireキャンパスでレセプションが開催され多くの学生、留学生、教員で賑わいました。挨拶に立ったManuel Tunon de Lara学長からは、特に本学との交流経緯について言及があり、来賓として木島譲次教授が挨拶を行いました。



ボルドー大学国際週間レセプションで挨拶する木島譲次教授・ボルドーオフィス管理責任者

… The 12th Solanaceae Conference (SOL2015) 開催

10月25日-10月29日にボルドー大学において“The 12th Solanaceae Conference (SOL2015)”（第12回国際ナス科学会）が開催されました。本学からは生命環境系より学生6名を含む12名の参加者があり、口頭発表2件、ポスター発表9件の研究発表を行いました。ボルドー常駐のGIP-TRIAD派遣教員である松倉千昭教授も口頭発表を行いました。また、生物圏資源科学専攻1年次生の江面健太郎君が優秀ポスター賞を受賞しました。併せて、ボルドーオフィス



SOL2015の学会風景

ならびに国際ジョイントラボの見学会を催し、他大学の教員・学生、企業研究者等多くの方がオフィスを訪れました。GIP-TRIADは本学関係者の学会参加および上記見学会を全面的に支援しました。



本学学生によるボルドーオフィス訪問



企業研究者によるジョイントラボ訪問

… 筑波大学・グローバルイノベーション学位プログラム



「日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度」創設に向けて

日本モンサント株式会社
代表取締役社長 山根精一郎

筑波大学と日本モンサント株式会社はこのたび、筑波大学生命環境科学研究科とフランス・ボルドー大学、国立台湾大学等との共同学位プログラム（Double Degree Program:DDP）・グローバルフードセキュリティコースを支援する「日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度」を創設いたしました。

我々モンサント・カンパニーは、安定して十分な食料と栄養を世界に供給するために「持続可能な農業」を確立することを企業の社会への誓約とし、農業技術・サービスを提供するグローバル企業です。2050年には90億人に達すると予想される人口増により、食料は現在の2倍必要になると言われています。一方で、地球温暖化による気候変動によって農業の生産性は低下し、水資源を含めた農業資源の減少も予想されています。そこで限られた資源でより多くの食料生産を実現する持続可能な農業を確立できる技術開発が今求められています。モンサント・カンパニーは植物バイオテクノロジー（遺伝子組換え技術）を使った作物の品種開発をはじめ、育種、化学農薬、生物農薬、精密農法など多様な技術を駆使することにより、この持続可能な農業の実現に寄与したいと考え、取り組んでいます。

今回、筑波大学がグローバルな視点で、農業分野で活躍出来る若手研究者やリーダーの育成に取り組んでいることを知り、その思いと目的を共有し、人材育成に貢献できればと思い、奨学金の提供を申し出ました。農業分野において、これまで以上にグローバルな視点を持った若手研究者やリーダーが必要であると感じていたからです。

グローバルな視点を持った人材とは、農業や技術に関する専門知識だけではなく、海外と日本の文化や思想の違いを理解したうえで、双方の長短所を理解し、それを基に対話し、お互いに納得できるかたちで解決策を共有し、その解決策を実行することにより双方にとって価値のある成果につなげていけることを可能にするコミュニケーション能力・問題解決能力を持っている人材と私たちは考えています。こうした能力を身につけ、グローバルな視点を持った人材に育ってくださることが、私たちがこの奨学金を通して達成しようとしていることです。

また、ボルドー大学との共同学位プログラムは、農業大国フランスの循環型農業に関する実地経験を積めるプログラムと聞いております。こうした実地経験を通じて、今までの日本に無かった技術や思想を学び、実践に強い人材が育ってくださることも私たちが大いに期待しているところです。そして、日本の農業の振興のために、広い視野で物事を見、新しいモデルを提言し実現できる人材がこの奨学金を受ける奨学生の皆様から育ってくださることが私たちのこの奨学金にかける夢です。

日本モンサントHP
<http://www.monsanto.co.jp/>

日本モンサントfacebook
<https://www.facebook.com/MonsantoJapan>



3 / 海外留学関連情報

「イノベーション・インターンシップ100」

イノベーション・インターンシップ100の情報が以下のとおり更新されましたので、お知らせいたします。



「イノベーション・インターンシップ100」ローンチのお知らせ

10月5日にマニユエル・ヴァルス首相が東京で自ら開催を宣言し、「日本フランス・イノベーションイヤー」の一貫で、「イノベーション・インターンシップ100」という、日本の学生の皆さんにフランスの最も革新的な企業でインターンを経験していただくことを目的とするプロジェクトがいよいよ始まりました。

1. 対象

日本国籍を持つ学生もしくは30歳未満の既卒者。候補者は能力や動機に応じて企業により選抜されます。

2. 参加企業

以下の企業が既にFrance Alumniのサイトに求人を掲載しています(<https://www.francealumni.fr/ja/poste/japon/partenaire/8765/offres>)。

THALES, MICHELIN, Air Liquide R&D, Sanofi, AXA Group, ORANGE S.A., VALEO LIGHTING SYSTEM, Valeo Systèmes Thermiques, PSA Peugeot Citroën, Fives Intralogistics SA

3. 「イノベーション・インターンシップ100」の内容

主旨: 企業によって選ばれたインターン生はイノベーションに関わる一分野(科学科学技術、産業、金融、料理、藝術、マーケティング、マネージメントなど)のプロジェクトに携わります。インターン生は直属の責任者により指導され、インターンの期間によってはその能力に応じた責任を任せられます。

使用言語、報酬、場所、住居等の詳しい内容は求人により異なりますのでFrance Alumniのサイトをご覧ください。

4. 必要ビザ

無料で交付されるワーキングホリデー・ビザによりインターン中の学生は渡仏し、研修もしくはその他の職業的活動をフランスで行うことが可能になります。他に手続きは必要ありません。企業側は、研修生およびその在籍する大学と研修契約を結ぶ以外、何も手続きをする必要はありません。

ワーキングホリデー・ヴィザが既に給付された方、もしくは管轄の労働局(DIRECCTE : Direction régionale des entreprises, de la concurrence, de la consommation, du travail et de l'emploi)との三者研修契約にサインした方についてはまた別の種類のヴィザを申請する事が可能です。

また応募時に日本の大学に在籍中の学生は、上記にもある大学と企業両者のサインが入った研修契約書が必要になる場合があります。

5. 資金面について

報酬は求人により異なります。